

いきいき

VOL 14
平成20年9月3日
いわき市総合教育センター

■ 2学期を迎えて

- 第2学期を迎えました。夏休みを終え、子どもたちはひと回り大きくなって登校したことを思います。
- 先生方、長期休業中の特別支援関係の各種研修会参加、ご苦労様でした。ちょっと気になる子への支援についての収穫も多かったことと思います。
- 年間で一番長い今学期、研修の成果を生かして、子ども達へ関わっていきましょう。
- 今回は、「精神的に安定している子」について考えてみたいと思います。

「精神的に安定している子」というと、先生方は、どんな表情の子を思い浮かべますか。笑顔が見られる子、穏やかな表情の子、生き生きとした表情の子などと、いろいろと浮かんで来ることと思います。

そのような表情を生み出すには、次の3つを普段から心がけておくことが大切です。

1 「認められたい」という承認の欲求が充足していること(集団の中での所属感)

これは、自分自身が自己存在感・有用感を感じている状態にあること、さらに自己理解、自己受容ができている状態にあるということです。

例えば、「周囲の人たちから声をかけて貰え、居場所がある。」「周囲の人に役立つ仕事の分担があり、その分担を果たした時に称賛され、感謝される。」ようだと、この状態に辿り着くことができます。また、今まで、「ダメ、ダメ」と思っていた場合でも、自分は、「みんなのために役に立つことがあるんだ。」と感ずることができた場合もそうです。

みんなに愛され、見守られている実感があることが、認められたいという承認の欲求が充足していることであり、その究極は「私を生んでくれて有難う」ということになるのでしょう。

2 順調に発達課題を経験し、乗り越えていくこと

周囲の大人が子どもの発達段階を理解しておくことが大切です。子どもの心の発達には、年齢に応じて次のような段階があります。



6歳～ この時期は、大人より友達を意識し、仲間言葉を使うようになります。仲間言葉はある程度許容しながらも、良くない言葉はきちんと指導しておく必要があります。

8歳～ 小学校も中学年期になると、同質を求めての仲間意識が高まり、異質なものに敏感になります。「仲間ルール」を共有し、集団を営むために必要な知恵を学んでいく時期です。

10歳～ 前思春期を経て思春期につながるこの時期は、他の人からの評価などから自分の能力を考えるようになり、他者と比較した優劣が気になってきます。周囲の人が本人を適切に評価し、正しい自己理解ができるようにさせるとともに本人が持っている能力を集団の中で生かせる機会を設け、自分の役割を果たす喜びを感じさせることが大切になってきます。

3 「よくなりたい」という向上心を持っていて、それを素直に出せること

向上心が生まれるには、適切な目標が必要です。「自分にもできそう!」という小さな目標と、そのスモールステップの積み重ねで到達できそうな大きめの目標もあるといいでしょう。その取り組みの過程で疲れた時には精神的にホッと休める場があることも大切です。

愛情で満たされていれば、多少の困難があっても乗り越える心のエネルギーが湧き出して来ます。

